

公募による市民編集委員8人を紹介します。2年にわたって市民編集のページを担当します。今回は、市民編集委員が日ごろ思っていることや意気込みなどを語ってくれました。

問い合わせは 市政発信課 ☎ 898-6642

熱意ある8人の 市民編集委員が決定

市民が市民の目線で企画編集する市民編集のページを担当します

積極的に地域社会に貢献を

吉澤 公世さん (大利根町二丁目・67歳)
広報まえばしの市民編集委員に選任され、これから2年間、取材や編集に携わるようになりました。市民の目線で市民の皆さんが興味を持つようなテーマの企画や編集をしていきたいと考えています。

とは言っても、私は今まで会社人間。このように編集に携わった経験はほとんどありません。これを機会に、今までの広報まえばしを読み返し市議会の傍聴をするなど、前橋市の動向を勉強していきたいです。そして、積極的に地域社会に溶け込めるような活動をして、周りの人たちの役に立ち、社会貢献をしていきたいと思えます。よろしく願います。



前橋の良いところを再発見

星野 まゆみさん (上大島町・51歳)
平成元年に旧佐波郡境町(現伊勢崎市)から、前橋に引っ越して来ました。小さな町から県都前橋に住まいを変えるのは不安も。しかし、ご近所の人たちはみんな温かく、すぐに住んで良かったと思えました。子育てはもちろんですが、前橋はとても住みやすく赤城山の雄大な姿に象徴されるように自然も豊かです。



私たちが家族を温かく迎えてくれた前橋への恩返しと、自分自身の小さな歴史を刻みたいと思っています。今や私にとってふるさとになった前橋の、知られざる名所などを探訪し、「デイスカバリー前橋」、改めて前橋の良い所を発掘し紹介したいです。

開かれた市政の第一歩

齋藤 佐保里さん (江木町・37歳)
生まれも育ちも前橋である私にとって、広報まえばしは非常に慣れ親しんだものです。だからこそ、市政情報を得る機会が多くが広報まえばしに委ねられていると実感しています。



市民編集のページのように市民自らが取材や編集に参加できる機会があることは、開かれた市政の第一歩だと確信しています。大好きな前橋でいつまでも安心して暮らせる市政を築くのは、やはり市民一人一人の力によると思います。そのためにも市政に関心を持ち、老若男女誰でも、市政にもっと気軽に参加できるように紙面をお届けできるように頑張ります。

気配りで親しみある広報に

船津 亮二さん (三保町二丁目・75歳)
広報の原点は広聴にあると聞いたことがあります。広報紙は受け取る人のために書かれるべきもの。聞く耳持たぬ広報はあまり好まれないようです。誠意ある心の込められた読みたくなる紙面づくりを目指します。新聞などの多くの情報紙が有料で購読されています。広報まえばしが有料だったらどうでしょう。



市民に愛される広報紙は芸術作品です。農作業に例えれば、施肥、かん水、除草、殺虫など、朝から夜まで足しげく畑に通い、手間を惜しまず、気配りを十二分に行き届かせる。そのように取り組み、より親しみある広報まえばしにしていきたいです。

誇れる歴史や文化を再考

周東 聖子さん (富士見町石井・61歳)
ことし、前橋市は市制施行120周年を迎えました。関東では東京、横浜、水戸に続いて4番目に市制を施行しました。かつては生糸のまちとして海外でも知られ、多くの文化人も育ててきました。この節目の年に、前橋の誇れる歴史と文化を再考することは大切だと思います。歴史をたどり、先人の丁寧な営みと偉業を顧みる中で、市民の視点から行政の施策や事業を確かめ、課題についても取材していければと考えています。そして、この市民編集のページが市民参加のまちづくり、開かれた市政の窓口となるよう努めていきたいと思えます。2年間よろしく願います。



書くことで人とのつながりを

長木 信吾さん (上細井町・26歳)
今回、市民編集委員に選ばれましたが、実は2年前に前橋に引っ越してきたばかりです。そのため前橋について知らないことが多いかもしれません。そのような私が、市民編集委員をやるうと思っただけは、次の2つの理由からです。1つ目は、前から人に読まれる文章を書きたいと思っていたことです。文章は決まらずに言えませんが、書くことを通して人とつながっていききたいです。2つ目は、前橋をもっと知りたいからです。2年間、前橋で暮らす中で農業や福祉を大事にする都市だと感じました。他にも前橋には誇るべきことがあるはず。2年間全力で走り続けます。



肩の力を抜いて自然体で

林 恵津子さん (南橋町・54歳)
「遊びをせんとや生れけむ戯れせんとや生れけむ。遊ぶ子供の声きけば我が身さえこそ動がるれ」NHK大河ドラマ・平清盛で流れる歌。人は遊ぶために生まれてきたのだろうか。戯れるために生まれてきたのだろうか。遊ぶ子供の声を聴いていると感動して我が身さえも動いてしまう。私はこの歌を次のように解釈しています。人が遊び戯れるだけの存在でないことは百も承知。人生は苦難や悲しみに満ちている。だからこそ、子どもの未来を祈り、大人も純真な遊び心や明日への希望を忘れまい、と。市民編集も肩の力を抜いて自然体で、「遊びをせんとや」書きたいな。



前橋PR隊員として活躍したい

黒岩 卓誠さん (幸塚町・21歳)
生まれてから21年間住んでいる前橋市。年齢を重ねるにつれて、地元・前橋の良さや素晴らしさが身に染みて分かるようになってきました。私は前橋市が好きです。都会に憧れた時期もありましたが、豊かな自然を感じる事ができる前橋の良さをもっと知りたいと思ひ、市民編集委員に応募しました。前橋を支えるたくさんの市民の人たちと話をすることで、今まで自分が知り得なかったことをいろいろと学びたいです。前橋のPR隊員として、有益な情報を皆さんに届けたいと思ひます。前橋市民であることに誇りと責任を持って取り組んでいきます。よろしく願います。

